

人と笑顔をつないだハナゲ物語

～ハネージュカップ誕生秘話～

奥田 早希子

OKUDA Sakiko

(一社)Water-n 代表理事
編集オフィス chomo 代表



1. はじまりは、いつも雨

「どうしてもなくなったら“手の5番”でもいいからさ」

当時の事務局長だった和田さんにそう誘われ、さっそく上野のアメヨコに行った。どうせ下手くそなんだから、質より値段ということで、丸いやつやら、三角のやつやら、平らなやつが揃って2万9,800円という超コスパの高いゴルフセットを購入した。

しかし、それまでゴルフなんてやったこともなくせに、しかも球技が昔から苦手だったくせに、そもそもゴルフクラブの種類も知らないくせに（丸いとか三角とか平らとかしか言いようがなかった。あ、前から順番にウッド、アイアン、パターのことです、念のため）、和田さんに誘われたゴルフの日は、ゴルフクラブを買ってから約1カ月後。それは、いくらなんでも無謀だよ、私……。

そして、当日——。

朝から雨がしとしと、ざあざあ。

合羽を着てでもやるんだろうか。まあ、どうせ雨が



写真-1 さ～行くぞ～（後列右から3人目が筆者）

降ろうと槍が降ろうと、下手くそは下手くそだ。雨のせいでスコアが悪くなるとかは関係ない（というか、そもそも初めてのラウンドだ。良いも悪いも比べる対象がない）。でも、雨は嫌だ。ぜったい、嫌！みんながやるって言っても、嫌だ嫌だと駄々をこねよう。

そんな決意を持って行った集合場所。果たして、メンバー各位の意見やいかに??

「やりたくないよねえ」

「こんな天気だから、中止でいいんじゃないの？」

「でも仕事には戻りたくないなあ」

「そりゃ、もちろん戻らないでしょ」

「戻れないよ、もう飲んでるもん」

「じゃあさ、偕楽園の梅を見に行こう」

「さんせ～い」

満場一致でとっとと中止が決まり、協和エクシオの川合さんの車で偕楽園を目指した。ドライバーの川合さんはそっちのけで、車中は飲みや歌えやの大騒ぎ。

「これはもう偕楽園で快楽園だね～」

おやじギャグ炸裂……。

これがJSTTゴルフコンペ「ハネージュカップ」の幻のゼロ回目の顛末だ。

ちなみに、雨天延期となったおかげで私には練習期間が余分に与えられたわけだが、大した意味はなかった。その後に開かれた第1回ハネージュカップでの私のスコアは「約202」。和田さんに期待されていた“手の5番”は登場しなかったものの、たたきすぎて途中で数えられなくなる大活躍ぶりであった。

2. 朝から晩まで“色付きの水”

当時のハネージュを酒抜きに語ることはできない。

ゴルフ場はいつも紫カントリーで、待ち合わせはいつも野田市駅。その時点ですでに数名が“色付きの水”を飲んでいる。平日開催&朝から飲み放題&ラウン

ド中も飲み放題&昼も飲み放題&夜も飲み放題。それがハネージュらしいコンペ風景だ。

ある時のティーショットで、ブンッと猛烈にLSプランニングの赤坂さんが空振り。それを見ていた和田さんが、ブーンと猛烈に“色付きの水”を噴き出して大爆笑。ラウンド後の懇親会でその話をしていたら、今度は赤坂さんがブホーンと爆裂に“色付きの水”を私に向かって噴き出したことがあった。嫌な顔くらいしても許される行為だが、私も大爆笑。料理にも飛び散ったが、みんな気にせず食べていた。なんともハネージュらしいエピソードである。

あの頃の主要メンバーは機関誌「No-Dig Today」の編集小委員が中心で、前出の和田さん、川合さん、赤坂さんのほか、石川さん（当時の専務理事）、塩見さん（ゼニス羽田）、黒岩さん（日本メックス）、川相さん（推進協会）、田中さん（当時は東京ガス）、小田さん（LSプランニング）などなど（漏れている人がいたらごめんなさい!!）。

社会的に地位の高い人も多いのに、朝から飲んだけれどスコアがぼろぼろの人もいれば、飲んだ方がスコアが良い人、勝負のためにかたくなに飲まない負けん気の強い子供みたいな人などなど、おっさん達のかわいらしい本音の一面を垣間見ることができたりもして、それはそれはいつでも楽しいラウンドだった。

和田さんは誘った手前、はじめの頃こそ「約202」の私の面倒をよく見てくれたが、腕を上げた私をライバル視するようになってからは放任主義になり、それ以降は黒岩さんがコーチになってくれた。しかし、黒岩さんは私と一緒に組になると決まってスコアがボロボロだった（すみません）。

なにとはともあれ、どの組になってもいつも誰かが下手くそを気にかけてくれていた。本当に楽しく優しいおっさん達だ。

3. 人間, 猿, 猿以下, そしてハネージュ

JSTT主催のイベントで、ヒューム管工場の見学会に行ったことがある。会場となった会社の方が、おやつを用意してくださっていて、なぜかそこにバナナがあった。環境新聞の水ビジネス担当の記者として同行していた私は「誰がバナナなんか食うねん」と心の中でツッコミを入れていたのだが、和田さんは真っ先に



写真-2 ラウンド終了後もビールがおいしい（前列右端が筆者）

食べていた。「うわっ、食べる人おるやん」と思いながら和田さんの手元に注目。さて、どうやってバナナをむくのか。わくわく。

左手でバナナをつかみ、皮を右手で上から下に1回むき、2回むきむき、3回むきむきむき。その時点で裸同然にむき出しになったバナナの実を、ぱくり。もぐもぐ。

「ふっ。猿やな」とバカにする私。

「なあにが猿なんだよお」と不満そうな和田さん。

「人間は4回でバナナをむくのです。3回でむくのは猿なんです。ふっ。私が見本を見せてあげよう。むきむきむきむき。これが人間のバナナです」

そこへ、毎朝バナナを食べるという塩見さんが登場。ニヤニヤしながら和田さんとアイコンタクトを交わした私は、

「塩見さんってバナナが好きなんでしたよね。とってきてあげますよ。はい、どうぞ」

「さきちゃん、優しいなあ。ありがとう」

さて、どうやってバナナを向くのか。わくわくわくわく。

むきむき……。ぱくり……。

え、まさか。2回むき？

その場が凍り付く。そして大爆笑。

「塩見さん、猿以下～」と涙を流すほど大笑いしながら、大いに馬鹿にする私。

「そういえばこの間、日本提案の規格として痛みの単位が設定されたことも知らないでしょ？」とさらに馬鹿にする私。

「そんなのあるの？知らない。何？」と塩見さん。
 「長さ1cmの鼻毛を鉛直下方向に1ニュートンの力でひっぱった時の痛みが1ハナゲなんですよ」
 「えーそうなの？」
 「そうそう。有名ですよ。知りませんか？」
 和田さんや小田さんまでもが、私の知識に驚いている。「ふっふっふっ。騙されてるよ、このおっさん達」と心の中で笑う私。しばらくだましたまんまにしーとこーっと。
 と思ったものの、さすがに怪しまれて数分後には大ウソだったことがばれ、「じゃあ足の小指をタンスにぶつけた時の痛みは1メガハナゲだ」「出産の痛みは、もうギガいっちゃいますよね」などと適当な計測をし

て大いに盛り上がった。
 この時の楽しかった記憶を忘れないようにしようということで、ハネージュというコンペの名称が決まったのである。
 「ハネージュ = HANAGE」
 HANAGE (ハナゲ) と書いて、ハネージュと読む。その名称にバナナは何の関係もないのだが、いまだにハネージュの名前の由来を語る時には、バナナとハナゲは切り離せない。そして、みんなの湧き出るばかりの笑顔もセットで思い出されるのである。
 あの頃も今も、ハネージュは人と笑顔をつないでくれた。そして、これからも……。

月刊推進技術

購読のご案内



年間定期購読料金 **12,337円** 1冊1,130円 (本体952円 税76円 送料102円)

わが国のライフラインなどのインフラ整備またはその再構築や新たな地下空間の築造に、掘削残土量やCO₂排出量を抑制し、なおかつ耐震性の高い推進工法のニーズが高まっています。月刊推進技術では、円滑かつ適正に推進工事を行っていただくため、必要とされる技術情報をわかりやすく解説をしております。また、推進関連のニュースはどこよりも早く、かつ情報満載でお届けしており、管路敷設に限らず、地下インフラの再構築の計画・設計・施工の業務にお役立ていただける内容となっております。

申込方法

お申込は、郵便局備え付けの払込取扱票に口座番号：00130-3-576039 加入者名：株式会社エルエスプランニングとして、通信欄に購読開始月を明記し年間定期購読料金12,337円をお支払いください。

詳しくは、月刊推進技術編集室にてご案内いたしております。

<http://www.lswb.co.jp/micro-tunnelling/>

月刊推進技術

検索



お問い合わせ先

月刊推進技術 編集室

<http://www.lswb.co.jp/micro-tunnelling/>

〒135-0033 東京都江東区深川2-12-4-201 株式会社 LSプランニング内
 電話 03-5621-7850 FAX 03-5621-7851 E-mail akasaka@lswb.co.jp